

西区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体					
自然資源を活かした賑わい事業(西区自然観察会 in 共生の森)		西区自治連合協議会「にぎわい・文化のまちづくり」部、堺市西区					
事業目的	事業内容	活動指標	R04	R05	R06		
西区に生息する生物に直接触れ、西区の自然環境や生態系に対する理解を深めることで、区民の環境保全への意識を高めることを目的とする。 事業を通じて、自然環境を活かした「にぎわい・文化のまちづくり」を進める。	大阪公立大学 農学研究科の平井規央教授を講師として招き、堺7-3区共生の森にて観察会を実施した。観察会で西区に生息する生物に直接触れ、講師から解説を聞くことにより、西区の自然環境や生態系についての理解を深め、自然環境を大切にするために身近なところから実践できることを学ぶ。	①観察会申込者数	7件(22人)	隔年開催のため 開催無し	10件(24人)		
		②当日確認できた生物の種類	30種類		24種類		
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
○	西区内には、大阪府の管理地である産業廃棄物の処理場を活用した共生の森があり、様々な生物が生息している。多様な生物に直接触れることで、区民が区内の生態系や環境について、興味・関心を持つことにつながる。西区内にある自然資源を活かした取組であるため、妥当性がある。	△	企画の部分で区民の参加はあったが、当日の運営・準備・調整などは区役所主体で行っている。	○	普段は立ち入ることのできない共生の森に専門家とともに赴き、直接生物に触れることは、貴重な自然体験であり、参加者にとってインパクトは強い。	△	現地まで公共交通機関の手段がなく、バスでの送迎が必要となる。移動手段や事業の安全な開催を考えると、参加人数に制約があり、費用対効果が低い。
⑤自立発展性		総合評価					
△	共生の森の立ち入り許可の取得や専門家や大阪府との調整など、区民が自立して取り組むことが困難な部分も多く、今後も区民と行政が協働して実施していくことが望ましい。	○	令和4年度はコロナ禍の影響により、観察地が共生の森近隣の野鳥観察小屋周辺に限られたが、令和6年度は共生の森に赴いて生物に触れる観察会を開催することができた。また、水中と陸上を合わせ24種類の生物を確認することができ、西区を取り巻く環境や生息する生物について知る貴重な機会となった。参加者アンケートでも、「生物や生態系について理解が深まり、貴重な体験ができた」といった声があり、観察会に参加して「大変良かった」「良かった」と回答した方が100%となるなど、満足度が高かった。				
今後の方向性(課題、改善提案等)							
拡充 継続 見直し 廃止	令和6年度も令和4年度に引き続き、広報紙と西区ホームページ・西区Xで観察会の参加募集・周知を行った結果、全ての申込が小学生と保護者の親子での申込であった。また、普段立ち入ることのできない共生の森で観察会を開催することができ、多様な生物に直接触れ、専門家から詳しい解説を行うことにより、西区民に区内の生態系や環境について知ってもらう貴重な機会になったと考える。参加者アンケートにおいても、「生物や生態系について理解が深まり、貴重な体験ができた」といった声があり、観察会に参加して「大変良かった」「良かった」と回答した方が100%となるなど、満足度が高かった。 一方で、観察会を安全に開催できる程度の人数では、費用対効果が低く、より多くの方が参加できる事業が望ましい。今後は実行委員や区民の意見、アンケートを踏まえながら、周知や規模の見直しを進めることで、より多くの区民に参加してもらえる事業内容を検討する。						